

平成23年7月1日から9月30日までの3ヶ月間、岩手県大船渡市へ災害復旧派遣の業務を行ってきました。私の3ヶ月間の派遣業務も無事終わり、大船渡市での業務内容等を報告します。

業務は、津波による浸水区域のがれき撤去の現場での監督業務でした。7月1日に初めて、大船渡市を始めとする被害を受けた地域に入り、テレビなどを通して見るのとはまた違った被害の大きさを目の当たりにしました。

*7月現在の様子 (大船渡市 末崎町)

がれきが散乱しており、道だけのがれき撤去されていた状態。家も全壊状態でそのまま残っていました。このような家も順に家主立会いの下、解体を進めてきました。



＊9月現在の様子（大船渡市 末崎町・がれき仮置き場・2次分別場所）

がれきの撤去も9割ほど終了し、壊した家の基礎を片付け、整地の段階まで来ました。7月に比べ、がれきが片付いている様子をはっきりと見てとれます。市役所の職員ばかりでなく、がれき撤去の作業を行っている業者や地元の方々が頑張っている表れだと感じました。しかし、がれき撤去の際に集められたがれきが今でも山積みで仮置きされている状態で、現在、コンクリートや鉄の分別、さらに手作業により家屋の柱についた金具を外し木材と鉄を仕分けている状況です。今後2～3年は、この分別作業が行われるそうです。



*大船渡市の街の様子

震災から半年以上たっても大船渡市には震災の爪あとが残っている部分がたくさんあります。海から水路を昇り住宅街に乗り上げている船や、解体が遅れている建物がまだまだあります。また海沿いでは、満潮時に道路が海水で冠水状態になる場所もあります。とはいえ、大船渡港に大型客船が入港したり海鮮料理のお店が再開したりと、少しずつではありますが、復興に向けて明るい兆しが出てきているのも見えてきました。



*3ヶ月の派遣を終えて

7月1日から3ヶ月間大船渡市で実際に災害復旧の仕事をしてみて、改めて震災による被害の大きさを感じました。しかし、7月1日に目にしたがれきの状況から3ヶ月間がれき撤去の仕事をしていると、少しずつ着実に片付いている様子を自分の目で確かめる事ができました。

また、大船渡市を始め被災された地域の子どもたちは、未だに続いている余震や放射能の問題、あるいは学校のグラウンドが仮設住宅になっているなどの影響で、自由に外で遊べないのが現状です。小さな子どもをもつ方は「子どもたちに、1日でも構わないから震災の事を忘れて自由に遊ばせてあげたい。」とおっしゃっていました。そのような子どもの心のケア面も含め、今後も佐久市で復興の支援ができればいいなと思いました。

がれき撤去やがれきの分別を始め、震災前のような大船渡市への復興には、まだまだ長い年月がかかると思います。しかし、確実に復興への兆しは出てきていると確信しています。今後も大船渡市の復興の様子に注目し、個人的にも再び訪れたいと思っています。3ヶ月間の派遣業務は、非常に良い経験となりました。

最後に、この3ヶ月間、大船渡市役所の方々、がれき撤去の作業を行っている業者を始めそれに携わっている方々、同じ現場で一緒に働いた大分市役所の方々、宿泊所の方々、そして、大船渡市の地元の皆さんには、大変よくして頂き、助けられて派遣業務を終える事が出来ました。本当にありがとうございました。

